

国文学

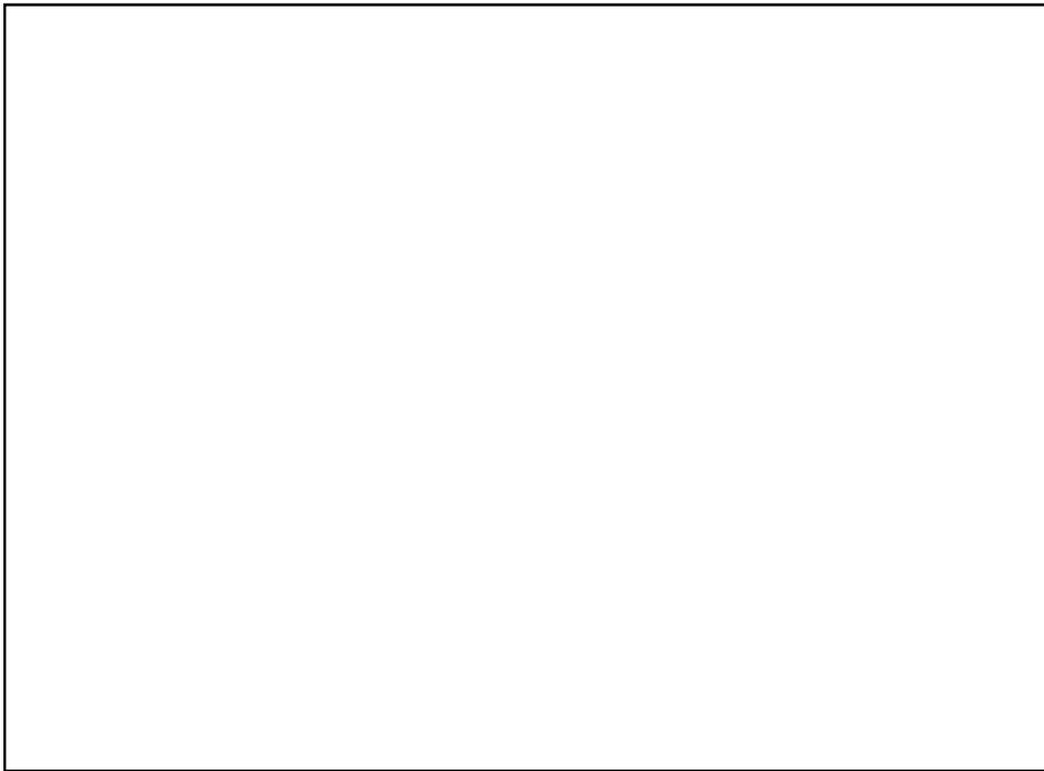
専攻

領域 (博士前期/修士・博士後期・前後期共通)

試験科目: 第 / 外国語 (英語) / 専門科目 ( )

試験時間: ( 90 ) 分

次の文章は、H. Jay Harris, *The Tales of Ise: translated from the classical Japanese* (Rutland, Vt.; Tokyo: C.E. Tuttle, 1972)の"Introduction"の一節である。これを読んで以下の問いに答えよ。



- 問 1 下線部(1)を本文中の説明を参照しながら日本語に訳せ。
- 問 2 下線部(2)を日本語に訳せ。
- 問 3 下線部(3)を日本語に訳せ。
- 問 4 下線部(4)は誰と考えられるか、記せ。
- 問 5 下線部(5)を日本語に訳せ。
- 問 6 下線部(6)を日本語に訳せ。
- 問 7 下線部(7)は具体的にはどういうことか、説明せよ。
- 問 8 下線部(8)を日本語に訳せ。

## 博士前期課程試験問題（国文学）

### 注意

○ 解答用紙は四枚（三枚）あります。※主たる専門分野を国文学とする者は四枚、国語学・漢文学とする者は三枚。

○ 解答用紙の右端の欄外にそれぞれ国文学（※一〜二枚）・国語学・漢文学と、よく分かるように大きく書いて下さい。  
※主たる専門分野を国文学とする者は二枚、国語学・漢文学とする者は一枚。

○ 解答は問題別にそれぞれ解答用紙に書いて下さい。国文学、国語学、漢文学の問題の答えを、それぞれ国文学、国語学、漢文学と欄外に書いてある解答用紙に書いて下さい。

なお、国文学の解答用紙には、右端の欄外に選択した問題の番号を合わせて書き入れて下さい。

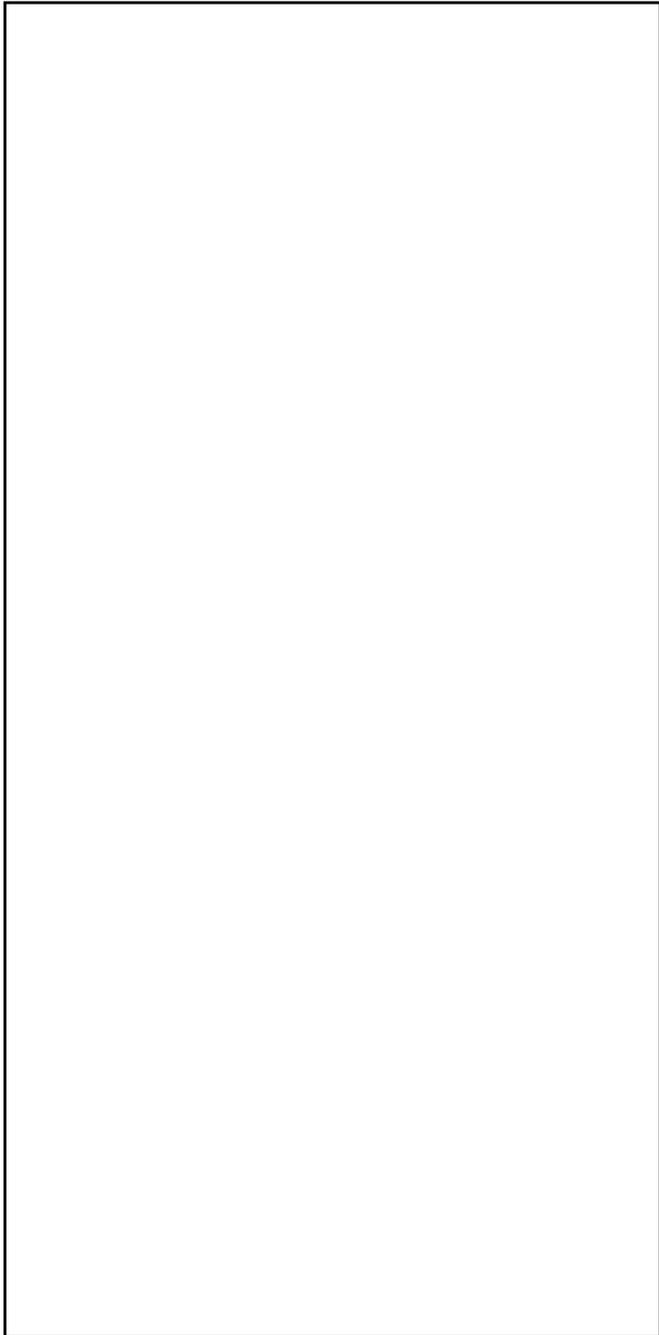
○ 問題は全部で四枚あります。国文学（二枚）・国語学（一枚）・漢文学（一枚）です。  
試験開始の合図があったら、まず問題が全部そろっているか、確認して下さい。

○ 問題用紙も試験終了後、回収しますが、メモ、下書きなどを問題用紙に書くことは差し支えありません。また、選択する問題だけが見やすいように、緩じ目をはずしてばらばらにしても構いません。

○ 提出の時は、問題も解答も配布された時と同じく、それぞれ重ねて提出して下さい。問題をばらばらにした場合、元の順序でなくても構いません。



II 次の文章は豊島与志雄「動的心境へ」(『新潮』大15・6)の一部である。これを読んで後の問に答えよ。



問一 傍線部1の観点をめぐってなされた論争について、具体的な人名に触れながら簡潔に説明せよ。

問二 傍線部2について、具体的な人名・作品名に触れながら説明せよ。

問三 傍線部3について、具体的な人名・作品名に触れながら説明せよ。ただし本評論が書かれた大正一五年以降の動向も踏まえて説明すること。

問四 傍線部4について、「私小説」をめぐる議論においてどのように言及されたか、具体的な人名に触れながら簡潔に説明せよ。

III 国文学を主たる専攻とする者のみ答えよ。

日本文学の中で信仰がどのように取り扱われ、作品にどのような効果をもたらしているか、具体的に論ぜよ。

(韻文・散文・戯曲のいずれを例としてもよい。また一つの作品を論じても、複数の作品を論じてもよい。)

国文学

専攻

領域（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（国文学）

試験時間：（ ）分

問題一 次の日本語研究に関連する事項・書名・人名についてそれぞれ説明せよ。

ア ク語法

イ 『和英語林集成』

ウ 方言周圖論

エ 二段動詞の一段化

オ 契沖

問題二 次のア～ウのうち、いずれか一つを選び、答えよ。

ア 中世から近世にかけての歌論・連歌論が江戸時代の日本語文法研究に与えた影響について、具体的に論ぜよ。

イ 言文一致体の成立に明治期の文学作品がどのような影響を与えたか、国語学の観点から論ぜよ。

ウ 現代日本語の語彙の特徴を、語種の観点から論ぜよ。

問題三 「国語学を主たる専門分野とする受験生のみ答えよ」

五十音図が日本語研究および日本の言語文化に対して果たした役割について具体的に論ぜよ。

国文学

専攻

領域 ( 博士前期/修士 ・ 博士後期 ・ 前後期共通 )

試験科目：第 外国語 ( ) / 専門科目 ( 漢文 )

試験時間： ( ) 分

問題 〇 次に掲げる詩文を読んで後の問いに答えよ。

【甲】 韓偓「向隅」詩 (『源奎律隨』卷二十九)

向隅

韓致光 屋

守道得途遲中兼遇乱離剛腸成繞指玄髮轉垂絲客  
路小安處病床無穩時弟兄消息絕獨歛向隅眉  
致光遇朱全忠之乱始謫濮州尋客湖南  
又人聞依王審知而卒其情懷可憐也

【乙】 潘岳「笙賦」 (『文選』卷十八)

【丙】 劉琨「重贈盧諶」詩

(『文選』卷二十五)

有始泰終約前榮後悴激憤於今悲來懷乎故  
冀象滿堂而飲酒獨向隅而掩淚潘岳笙賦  
奈也約儉也來謂孔子曰欲廣厲志之樂和子  
新論雅門周曰民之為能含悲者先覺而後  
故也而今余就死日吾人於天下覺下堂之上  
今有蕭瑟歎鴻有下人獨索然向隅並則下堂  
之人皆不樂也○濟日謂人有初遇申奉之堪  
終遂否約之理或前為樂官後則田疇方憤怨  
今之會賜退舊之常貴雖象滿堂  
而樂獨向隅掩淚而向隅也

漢書注曰說者以金取堅剛百鍊不耗○濟日  
百鍊之鐵堅剛而今可鍊指自喻經破敗而至  
柔弱也  
何意百鍊剛化為繞指柔劉琨詩

- (一) 【乙】、【丙】に基づいて「向隅」「繞指」の二語に語釈を施せ。
- (二) 【甲】の詩を書き下し文にせよ。
- (三) 【甲】の詩を、詩の末尾に付された評語を踏まえて、口語訳せよ。

漢文学を専攻とする者のみ解答せよ。  
問題 〇 唐詩の四変説に拠り、各時代の詩の特徴について論述せよ。